

# 2019年度ユース審判員派遣 in フクダカップ

青森県サッカー協会審判委員会

1. 大会名 第22回フクダカップ（冬）八戸市中学生ミニサッカー大会
2. 主催 FAST-PORTAL (AMBITIOUS)
3. 期 日 令和2年2月8日（土）～2月9日（日）
4. 会 場 グリーンドーム南郷
5. 参加者

## ユース審判員

- 久保沢 透大（サッカー3級昇級受験者）
- 高屋敷 知成（サッカー3級昇級受験者）
- 立花 英駿（サッカー3級昇級受験者）
- 田所 柊（サッカー3級昇級受験者）
- 元沢 慎平（サッカー3級昇級受験者）
- 大手 祐哉（サッカー3級）

## 審判インストラクター

- ◆ 石田 明（県審判委員会インストラクター副部長）
- ◆ 石鉢 学（県審判委員会指導育成部ユース部長）
- ◆ 苫米地 匡敬（審判インストラクター）
- ◆ 古舘 学（審判インストラクター）

## 6. 競技規定（抜粋）

- 競技規則は（公財）日本サッカー協会「JFA8人制競技規則」に準ずる。
- 試合時間は30分（ハーフタイムなし）。ただし、競技時間内に勝敗が決しない場合、予選リーグは引き分けとする。決勝トーナメントはPK方式（サドンデス）により勝者を決定する。
- 交代人数に制限はなく、自由な交代とする。

## 7. 会場の様子



## 8. 参加者レポート

- 久保沢 透大（サッカー4級ユース審判員）

今大会では主審を3試合やらせていただきました。3試合ともスムーズに進行することができましたが、争点に近すぎてパスコースを塞いでしまったことが多々あったので、選手の邪魔にならないような距離間を考えたいと思いました。機会があれば、これからも主審をしていきたいです。

- 高屋敷 知成（サッカー4級コース審判員）

私はこの大会で大きく成長出来たと感じました。ランニングをしっかりとし、ファウルのジャッジやシグナルを素早く出来ました。しかし、まだ出来ていないところがあると思うので、インストラクターの方々のアドバイスを参考にして、何が出来ていなかったなどを自分で判断し、レベルアップしていきたいです。

- 立花 英駿（サッカー4級コース審判員）

昇級試験から2週間ぶりに審判をしましたが、試験の時よりもジャッジに自信を持つことができました。私の長所は争点を見るために近い所まで走って寄ることで、説得力のあるジャッジをすることなので、2日間を通してできたと思います。また、インストラクターの方々からの確かなアドバイスをいただき、さらにレベルアップすることができました。さらに上のステージに向かって、頑張っていきたいです。

- 田所 柊（サッカー4級コース審判員）

対角線審判法に基づいて幅を意識しながら争点を監視することがまだできないので、修正したい。また、懲戒罰のところもまだまだなので改善したい。

- 元沢 慎平（サッカー4級コース審判員）

今大会では主審を中心に務めました。緊張しすぎて動きが固かったり、ファウルの有無やボールアウトをどちらがしたのか、あまり見れませんでした。これからは選手同士の接触やスローインの指示を正確にできるようにし、争点をきちんと監視できる位置をとりたいです。また、全体的に走力が足りなかったなので、スタミナをつけ、正しいジャッジができるようにしていきたいです。

- 大手 祐哉（サッカー3級コース審判員）

今回は、中学生の大会で審判をやらせていただきました。ハイレベルな試合が繰り広げられる中で、これまでの経験を生かし、説得力のあるレフェリングができたと思います。主審での課題だったレフェリングやポジショニングを意識し、修正することができました。副審では、常にディフェンスラインを見ながらゲームの状況を確認し、予想して動くことができました。自分にとって大きな成長が見られる大会で、楽しかったです。

- ◆ 古舘 学（審判インストラクター）

フクダカップにインストラクターとして参加させていただきました。今回参加したコース審判員は直前の昇級講習会に参加しており、短い期間で継続的な積み重ねをすることができたので、成長のスピードも驚くほど速いものでした。試合を重ねるごとに課題となる事象が現れ、それを分析し、どうすれば解決できるかを考える振り返りの時間が、コース審判員にとっては有意義なものとなっていました。吸収力が高く、審判としてレベルアップしていく姿に頼もしさを感じました。試合を通して審判の難しさや悔しさとともに、サッカーにかかわる喜びを感じることもできたようでした。また、前向きでひたむきな姿勢は、私自身が初心に帰る貴重な機会でもありました。このような機会をいただき、ありがとうございました。